

◆千葉市への空襲

昭和19年（1944）11月から、ボーイングB29大型爆撃機を主力とするアメリカ軍の日本本土空襲が本格化しました。当時千葉市には県下最大の軍需工場である日立航空機千葉工場があり、また国鉄千葉機関区や多数の軍事施設が存在したため、格好の攻撃目標だったのです。米軍の資料によると、米軍が明確に千葉市を目標としたのは昭和20年6月10日と7月7日の2回でした。

◆昭和20年6月10日の千葉空襲

昭和20年5月8日昼、硫黄島基地から米軍の飛行機65機が千葉県上空に飛来し、日立工場では機銃掃射によって工具・動員女学生の負傷者が20人ほど出ました。

1ヶ月後の6月10日朝、房総半島を北上した27機のB29が日立工場めがけて高度5000メートルから空爆を行いました。爆弾は工場をかすめて隣接の蘇我町1丁目に集中し、この地区だけで142名の死者がでました。更に北進したB29は、県立千葉高女・千葉師範女子部・千葉機関区を含む一帯（現JR千葉駅周辺）にも投弾し、女生徒や機関区員のほか、新宿・新田・富士見・新町の住民、入院患者や通勤客などが鉄片の炸裂と爆風に巻き込まれ、死傷者391名、被災戸数415戸、被災面積26ヘクタールに及ぶ大きな被害が出ました。

千葉市空襲の被害状況

	昭和20年6月10日	昭和20年7月7日
時 間	午前7時45分～46分	午前1時39分～3時5分
目 標	日立航空機会社千葉工場	千葉市街地
参加部隊	第314航空団 (ゲラム北飛行場)	第58航空団 (テニアン西飛行場)
出撃機数	27機	129機
投下爆弾	500ポンド通常爆弾	100ポンド焼夷弾 500ポンド焼夷集束弾 500ポンド破片集束弾
投下爆弾重	138.2トン	889.5トン
被害地域	同工場の一部と蘇我町1丁目付近。目標から外れた新宿・富士見・新田町・新町付近	中心市街地の大部分
被害を受けた主な施設	・省線機関区（現在のJR千葉駅付近） ・千葉師範学校女子部 ・県立千葉高等女学校 など	千葉地方裁判所・千葉郵便局・千葉鉄道管理部・省線千葉駅・同本千葉駅・京成千葉駅・鉄道第一聯隊・気球聯隊・陸軍歩兵学校・千葉陸軍高射学校
死 傷 者	391名	1204名
被害戸数	415戸	8489戸
被災面積	26ヘクタール	205ヘクタール

※『写真集 千葉市のあゆみ』より（千葉市広報課・2001年3月）

◆昭和20年7月6・7日の千葉空襲（七夕空襲）

さらに1ヶ月後の7月6日から7日にかけて、124機のB29による大規模な夜間レーダー焼夷弾攻撃がありました。投下は周辺部から始まって中心地に及び、市街地は火の壁で囲まれ、さらにその中に大量の焼夷弾が降り注ぎました。使用された焼夷弾の量は、同年3月10日の東京大空襲のほぼ半分に相当する約900トンに及びました。この空襲で火の壁に囲まれた地区の路上や、家庭防空壕でも多くの市民が犠牲になりました。特に本町国民学校・千葉神社・宝幢院・京成千葉駅（現在の中央公園の位置）のあたりで多数の市民が焼死しています。避難先の都川上流や海岸などにも、容赦なく人身殺傷爆弾や小型機の機銃弾が襲いかかりました。7月7日未明、雨が降り出したため、県庁・市役所を含む都川以南の一面は延焼を免れ、虫食い状の焼失にとどまりましたが、最終的にはこの空襲によって市街地の約7割が焼け野原となったのです。被害は死傷者1,204名、被災戸数8,489戸、被災面積約205ヘクタールに及びました。